

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘グループホーム山国		
所在地	大分県中津市山国町守実57-1番地		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	平成22年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4473000349&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関に鍵を掛けない支援に努めている。産地の米や採りたての野菜を使って、利用者と一緒に暖かい食事を提供している。利用者優先の自立支援に努めている。緑豊かな自然環境の中で地域の行事等を楽しんでいる。法人に多種のサービスがあり、体調の変化、身体機能の低下にあわせ、ご家族やご利用者の意向に添ったサービスの提供が行えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・食事は、地元の食材を中心に、3食・おやつを利用者と共に楽しみながら手作りで調理をしている。
- ・利用者は、穏やかで落ち着いており、化粧している方も多く、身綺麗にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時・理念を確認し復唱し各職員が日々の支援で実践している(ケアプランにも生かしている)	「地域とのつながりを深める日々の支援に努める」を理念とし、玄関や事務所に掲示するなどして共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の七夕行事や、運動会などに参加して、地域との交流を図っている。食材をJA直販所に利用者と一緒に買いに行き、近隣の方との交流・漬物・野菜等の差し入れがある。玄関に鉢の花設置(ボランティア)をしてくださっている。	近所の直販所への買い物や、その際に地域の方と話をしたり野菜を持って来てくれるなどしている。また、地域の運動会や行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々に認知症の理解を深めてもらえるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や運営に関する報告の他に意見交換の時間を設けご要望やご意見を伺い話し合い、よりよいサービス提供に努めている。家族より相談のあった専門医院への受診の支援について検討している。	会議を定期的に開催しており、メンバーの意見やアイデアに基づいて、隣接する特別養護老人ホームとの交流を行ったり、地域住民と合同の避難訓練を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換を行い利用者が地域の中でさらに生活しやすいように連携を図っている。又、市の職員が運営推進会議の委員であり、必要に応じて相談を行っている。	ホーム側から、施設運営についての報告や相談をしたり、市からもチャレンジおおいなどの行事案内をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束について研修を行い理解を深めるようにしている。又見守りに努め、施錠しない支援に努めている。	職員研修などで年1回程度、定期的に研修を行ったり、日常的にはOJTで指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング等で、理解が深められるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議上でも、成年後見制度等について話し合いをして支援できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に理解納得していただけるように説明を心がけている。利用者の状態変化時には、家族と相談し方針を検討している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やプラン見直し時、面会時など機会あるごとに確認し、話しやすい雰囲気づくりに心がけ、意向・要望等について話し合い反映させている。	面会に来る家族が多く、その際に直接または電話時などに意見や要望を聞いている。また、家族アンケートを行っており、出された意見や要望に対しては、順次対応している。利用者からは、日常のケアの発言などから聞き取りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に対する改善提案や様々な意見を聞き運営に反映させるように努めている。事業計画の作成時に職員の意見を聞き、計画に反映させている。	毎年度行う事業計画作成時に全職員から意見や提案の聞き取りを行っている。また、日常の業務の中から出た職員の意見を取りまとめ、各事業所の管理者が集まる会議で話し合うなどの仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慰労を兼ねた食事会や表彰制度を取り入れ、職員が向上心を持って働けるような職場環境づくりにつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り必要な研修に参加し、職員の資質向上に努めている。又資格取得の向けて、個々人の取り組みもあり勤務上の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の社会福祉法人のグループホーム間での情報交換や研修(課題別の取り組み)に参加、又、他施設の見学・職場内でその情報を共有し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた場合は、本人・家族の話を傾聴するように努めている。又、担当ケアマネジャーより情報を得て、様々な問題に対応できるように努め、納得されたくうえで利用していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時に現状やサービス利用状況などをうかがい家族の意向を理解し、介護相談や助言など行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、助言や他の機関等のサービスの紹介などを含めた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が人生の先輩であるという認識を職員が共有し、利用者に教えていただくというストレングス視点の援助を行っている。季節の行事や習わし、また得意な料理の方法を教えていただいたり、特技や趣味が発揮できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から利用者の過去の生活状況や、好きなこと、嫌いなことなどの情報を得るように努め、ご家族の意向に応えながら利用者の自立支援に努めている。又面会・電話連絡等できるだけしてもらえよう願っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出は自由にしている。面会時には、共に過ごせる場を提供し、大切な時間を遠慮せずに楽しめるように努力している。	馴染みの美容室の利用、病院受診日を利用者の知り合いの方の受診日時と合わせて調整している。年1回の健康診断で外出の際には、各自の自宅近くを訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞く機会を設けたり、皆でカラオケや、ソファーや和室のコタツでの談話など、それぞれの場で利用者同士の関係がうまくいくように心がけ、見守りなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移動された方にも、情報を提供したり、継続的な支援になるようにしている。又、面会の機会づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添って近くの美容院に毛染め、カットへの支援等行っている。ご利用者の表情・行動・言葉等から個々の思いを汲み取り、寄り添った支援に努めている。	利用者からは、日常の関わりを中心に、家族から面会や電話で意見を聞き対応しているが、文書に残されていない。	利用者や家族から把握した意見や要望を関係スタッフで共有・検討するためにも、分かりやすく記録にまとめることが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族の意向や、担当ケアマネージャーより情報を得るようにしている。入居後も定期的に本人やご家族に聴き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々人の生活リズムを理解するとともに、特技や趣味を発揮できる場面などを提供し、その状態に合わせた声かけ・見守り・支援を心がけ、個々人の状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃からの関わりのなかで、思いや意向を反映させるようにしている。職員全員で検討しケアプランを作成している。	管理者を中心に、毎月のモニタリングを行いながら必要時には随時、または半年に1回定期的な見直しを行っている。計画変更時は、職員に口頭で説明をしている。	利用者・家族・職員など関係者の意見やアイデアを反映しながら、モニタリングや計画の見直しをすることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記載し、気付いたこと、体調変化時等申し送りを徹底し情報共有できるようにしている。職員全員で検討しケアプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の委員に市の職員、地域包括支援センター職員、民生委員の参加があり・情報交換を行っている。消防署の方が参加の避難・消火・通報訓練の助言・指導を得ている。災害時には地域との協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、又ご本人が希望する医療機関へ受診できるように支援している。受診や必要時の往診等の協力医院がある。	本人・家族の希望するかかりつけ医で対応しており、家族の状況に応じて、職員が受診の対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的受診で御利用者の状況を把握している看護師に相談したりして、受診につなげたり、同法人の看護師より助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と医師との話し合い、早期退院に向けて調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良時や、入院等により重度化が予測される場合、できるだけ早い段階で医師と連携を図り、ご本人・家族と話し合い、納得のいく終末期を過ごしていただけるように取り組んでいる。	本人・家族へは、入居時に方針を口頭で説明しており、職員も共有している。現在、方針を文書化中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網・マニュアルを把握しており救急法の勉強会を実施し、体得するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時は地域の方にも緊急連絡網で協力をえられるようにしている。年一回消防署の方の指導で避難訓練を行っている。水害等の避難場所に利用者のあき自宅との契約をしている。同法人の協力体制もある。	2ヶ月に1回の避難訓練と、年1回消防署と合同訓練を行っており、地域の消防団への協力依頼もしている。また建物が川沿いに立地しているため、職員室には水位表を写真で分かりやすく掲示している。食料の備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者の個々にあわせ、さりげない言葉かけや支援に心がけ、気付いたときは職員同士お互いに注意し合うようにしている。プライバシー保護についての勉強会を行い、理解が深められるように取り組んでいる。	職員研修などで、年1回程度定期的に研修を行ったり、日常的には、OJTで指導するなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般において御利用者の方々の意思表示を大切にしたケアに心がけている。意思表示が困難な場合は、顔きによる返答や表情を読み取るようにし、本人の意思が尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、体調やその日そのときの本人の気持ちを尊重し、食事の時間・入浴の検討・変更、個別散歩など柔軟な対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事・母の日・敬老会・誕生日などには一緒に洋服を選んだり、お化粧やおしゃれを楽しめるように支援している。地域の美容院でのカット・毛染め等(談話を楽しみながらの)利用の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも調理するので利用者の好みに変更したり、体調にあわせて調理方法を検討し、食材の買い物・もやしの根とり・しめじの小分け・ごぼうのさがき・里芋の皮むきなど利用者の手伝いある。職員も一緒に和やかに食事を楽しんでいる。	法人の栄養士が作成した献立をもとに、グループホームで、利用者の好みや状況に応じてアレンジして対応している。3食・おやつを手作りで地元の食材を中心に、利用者とともに調理、食事を楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日チェックし記録し摂取量が少ない場合は、申し送りで把握し必要な支援をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい・歯磨き・入れ歯の手入れを行い、口腔の清潔保持に努めている。また口腔の状態の観察をしている。毎夜入れ歯のポリドント洗浄支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ご利用者の行動を察知しトイレ誘導を行い、出来るだけトイレにて排泄していただくように支援している。又時間を見計らって誘導の声かけを行っている。	おむつを使用している利用者はおらず、排泄チェック表等で排泄パターンを把握して、できる限り誘導での対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分摂取・おやつなどの工夫で便秘予防に努めている。排泄チェックで確認しながら排便支援を行っている。また医師より薬の処方されているご利用者もあり、様子を観察して内服支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本とし、本人の希望や必要に応じて入浴の回数を増やしている。又体調や気分により、入浴日を変更するなど柔軟な支援を行っている。入浴をゆったりと楽しんでいただけるように入浴剤又、ゆず風呂等の準備している。	週3回を基本としているが、利用者の希望に応じて対応するようにしている。入浴できない場合は、清拭やシャワーなどで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者の生活パターンを観察して、本人の意向を尊重した支援を行っている。例)昼食後のベットでの休養・運動・レク・余暇活動など行うことにより安眠の支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を変更した場合にその旨を記録し、職員間で情報を共有し本人に変化があった場合は医療機関と連絡をとり指示をえている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握して得意分野での一人ひとりの力を発揮と楽しみごとの提供に努めている。グループホーム内でお手伝いできそうな仕事をお願いし、その後必ず感謝の気持ちをご本人伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望する美容院にて(談話を楽しみながら)毛染め・カット利用の支援・本人の希望により日常的に散歩・農協等への買い物・ドライブ・などに出かけたり・また花見や紅葉見物など季節毎の外出で外食等も楽しんでいただくように支援している。	週2、3回近所への散歩や買い物、1、2ヶ月毎に、季節の花見やドライブ、外食などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の能力に応じて、買い物外出時に職員が付き添いで支払いの見守り援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や用事があるとき、電話したり絵手紙・年賀などで家族との交流を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花の鉢を置き、ホーム内には御利用者の作品等掲示し、ホールにソファを置きテレビ鑑賞をできるように、和室にはコタツ(冬場)・又ホールには日当たりいいところに畳を敷いて日向ぼっこを楽しめるように配慮している。またCDをかけ、くつろげる雰囲気づくりをしている。	食堂ホールは、天井が高くゆとりがあり、横には、コタツが置かれた和室もある。季節の花が、ホールや玄関に生けてあり、雛人形を飾ったり、利用者が作成したちぎり絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の方々は、こたつで談話されたり・ソファでテレビを鑑賞をしたり、又日向ぼっこをされたりと好みの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計・カレンダー・テレビ・馴染みのある私物・家族写真・家具など居室に置き、やすらぎの場所づくりに心掛けている。	居室には、家族の写真が置かれていたり、洋服を分かりやすく工夫してラックにかけてあるなど、各自が落ちついて過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・エレベータ・浴室・脱衣所など手すりの設置や段差をなくし、安全や、自立に配慮している。外出時、玄関に椅子を置き、腰掛けて靴などの交換をするようにしている。		